



願いと幸せの物々交換

大田区立大森第七中学校 三年 遠藤 和奏

毎日学校に登校するとき、ふと周りを見渡してみる。いつも通る道路や橋。自分が小さい頃から遊んだ公園。「これらは一体どうやって作られているのか。」と考えることがある。学校についても同じことが言えるだろう。教室にある黒板、机、校庭などさまざまなものが存在するために、これらすべてに「税」が関わっているのだ。

そこで毎日私が関わっている「教育」にかけられる税金について調べることにした。すると年間を通して中学生一人あたりには百万円以上の税金がかけられていることが分かった。その約百万円は国民が国に納める消費税や所得税、法人税などさまざまな税から当てられている。しかし、私は税の徴収には賛否両論あると考える。「苦勞して貯めたお金をなぜ自分が関係ないところに使われる税として払わなければいけないのか。」など否定的な意見を持っている人も少なからずいるはずだ。だが、それは国の明るい未来をつくるための手助けなのではないかと考える。誰もが通る道である「教育」に長い歴史をかけてその重要性が見出されてきた。その中で、願いを込めて国に税を払うことも国民の義務である。政府が中学生に年間百万円以上も税をかけている理由は、やはり今より

もさらに発展した国を創る人材を期待しているからだろう。また、大田区では約二年前から給食の無償化が始まった。そこにはさらに未来に対する期待が込められていると私は考える。そしてその期待を無駄にしないために、私たち学生は、「税」で満たされた環境で一生懸命に学習する必要がある。成人するまでの十八年の間、子どもは税のサイクルの見えない仲立ちの役割をしているのである。

私はまだ子どもなので、当たり前前に税を納めた経験がない。だからといって「税」と無関係だとは言いつけることができない。なぜなら毎日の生活がさまざまな「税」に助けられているからだ。「税」という仕組みがなければ自分が抱いている夢や希望も将来叶えることができないだろう。私は「税の仕組み」は「願いと幸せの物々交換」に言い換えることができると思う。願いを込めて「税」を納める。そして「税」によって作られたさまざまな幸せをもらう。これは、どちらかが欠けてしまつては日本が成り立たない、大切なやり取りだ。この「願いと幸せの物々交換」が途絶えないよう、これまで以上にたくさんの人が「税」の仕組みについて興味を持ち、そして政府がそれに応えるような政策を練ることが重要であると思う。

すべての国民が「国を今よりも良くすること」を目標とし、税のサイクルを回すことで今よりも国を発達させることができるだろう。私も「税」の存在、そしてそれに関わっているすべての人に感謝の気持ちを保持つと同時に期待に応えられるように、生活を送っていききたい。